

山都町立清和中学校 研究の概要

本校教育目標

自己実現に向かって主体的に学ぶ、
心身共に豊かでたくましい生徒の育成

研究主題

主体的な生き方を育む道德教育

～ 「主体的・対話的で深い学び」のある道德科の授業を通して ～

※ 本研究における **主体的な生き方を育む道德教育** とは…

自ら考え、自ら判断し、他者との協働の中でよりよく生きるための道德性を耕し育てる教育

※ 本研究における **「主体的・対話的で深い学び」のある道德科の授業** とは…

道德的価値に対して自分との関わりの中で価値を捉え、他者との協働や対話を通して学び合いを広げ、人間としての生き方について考えさせ、生徒の道德性を耕し育む道德科の授業

3つの仮説と2つの部会の設置

主体的・対話的で深い学びのある
道德科の授業を探る **授業部会**

自らの生き方を主体的に考える姿を
目指す **評価部会**

【仮説1】

学年部による授業計画及び記録をシステム化し、全職員が参画する道德科の授業を実践すれば、授業改善につながるであろう。

【仮説2】

導入、中心発問、終末を工夫すれば、主体的・対話的で深い学びのある道德科の授業をつくることができるであろう。

【仮説3】

振り返りや教師による評価の在り方を工夫すれば、生徒が自らの生き方について主体的に考えることができるであろう。

仮説1：学年部による授業計画及び記録をシステム化し、全職員が参画する道徳科の授業を実践すれば、授業改善につながるであろう。



担任だけではなく、授業者が立てた授業計画に対して学年会で検討、協力して準備をして授業に臨む。

導入の工夫Ⅰ

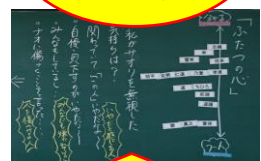
身近・日常の出来事による導入



C(10) 遵法精神、公德心の授業で、社会問題となっている「あおり運転」のニュースを見せたことで、生徒全員の顔が上がり、興味や関心が高まった。

中心発問の工夫Ⅰ

主人公に自分を重ねる共感的な発問



A(1) 自主、自律、自由と責任の授業で、自分の考えを数直線上に示し可視化、授業者が逆の価値を意図的に与えることにより生徒に葛藤が生まれ、より深い意見交換ができた。

終末の工夫Ⅰ

映像で価値の深化を図る終末

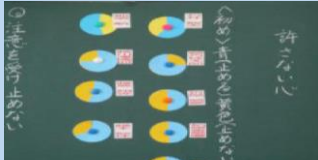
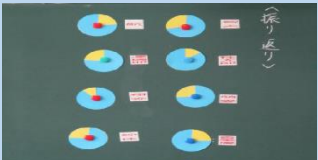


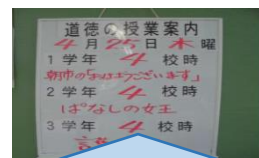
C(13) 勤労の授業で、教師の説話の代わりにプライドを持って清掃業務に取り組む動画を見せたことで、教師による価値の押し付けを防ぎ、他者の姿から自分の生き方を考えさせる終末になった。

A(2) 節度・節制の授業で、今後自分が身に付けたい生活習慣を発表させ、「あなたはできている」「ぼくも同じ」など、友達の意見から自分を見つめ直す終末になった。

仮説2：導入、中心発問、終末を工夫すれば、主体的・対話的で深い学びのある道徳科の授業をつくることができるであろう。

特別の教科 道徳 授業計画

授業日時	8月29日(木) 3校時	授業者	〇〇 〇〇
本時の指導内容	C(10) 遵法精神、公德心		
指導の観点	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして規律ある安定した社会の実現に努めること。		
関連する指導内容	C(15) よりよい学校生活、集団生活の充実		
教科等との関連	国語科、数学、保健体育		
内容項目に対する生徒の実態	Ⅲ：Aくん(心情)、Bさん(判断)		
主題名	例えば君なら		
ねらい	祭りの場面での中学生、高校生の行動に対する作者の意見を通して、周囲の問題に無関心であることの問題点と決まりや規則の意義を理解し、それを進んで守ろうとする意欲を高める。		
教材名	許さない心		
【事前の準備】			
・あおり運転の映像の準備。			
【導入のやり方】			
・今、ニュースなどで話題となっている「あおり運転」の映像を見ましょう。			
・あなたの友達が、決まりを守らない行動をとったとしたら、止めるか止めないかを、1回目の心情円で表しましょう。			
			
生徒に今の段階における道徳的価値に対して自覚させる。			
【展開のやり方】(発問のスタイル)			
・注意を素直に受け止めない人たちがいることを「私」はどう思っているだろうか。(共感的な発問)			
展開は、まず、中心発問を決めて前後の発問を考える。			
			
★中心発問：「私には関係ない」「やりたい連中がやればよい」と思う人が、増えたらどうなるだろうか。(批判的な発問)			
・決まりや規則が守られていくためには どのような心構えが大切だろうか。(分析的発問)			
【終末のやり方】			
・自分は、ルールを守らない友達がいたら、どう行動していきたいかを書いて、今の気持ちを2回目の心情円に表しましょう。			
・教師の説話を聞きましょう。			
・自己評価(振り返り)をワークシートに書きましょう。			
			
1回目と比較して自分の心の変容を確認させる。			



職員室に次の道徳の授業を案内するホワイトボードを設置、学年部だけではなく誰でも授業参観ができる。

導入の工夫Ⅱ

教材の内容に関連する導入



A(2) 節度・節制の授業で「〇〇ばなし」の〇〇について自分の生活を振り返り、一人ずつ発表させたことで、スムーズに教材の内容につなげることができた。

中心発問の工夫Ⅱ

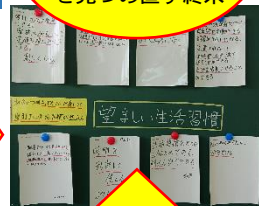
主人公に自己を置換させて問う投影的な発問



C(10) 遵法精神、公德心の授業で、4人組でロールプレイをさせ、ねらいに向けて一人一人が取るべき行動について深く考えさせることができ、活発な意見交換ができた。

終末の工夫Ⅱ

お互いに伝え合い、自分を見つめ直す終末



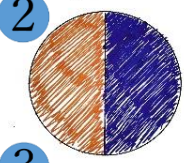
仮説3：振り返りや教師による評価の在り方を工夫すれば、生徒が自らの生き方について主体的に考えることができるであろう。

12 許さない心(教科書 p.61～63)

学習日 2019 年 8 月 29 日

生徒氏名

<初め>ルールや決まりを守っていない友達がいたとき、あなたはどのようにしますか？
(青色：止める or 黄色：止めない)



3

止める 50% 止めない 50%
理由：私もルールや決まりを完全に守っているとは
言えないので、友達にもあれ、注意できないから。

自分(人間)を知る

問い：注意と素直に受け止めない人たちがいることと「私」とはどう思っているだろう。

自分の考え

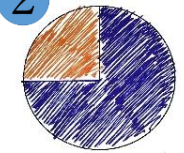
友達の考え

みんなが楽しんでいる場の雰囲気
をくずすようなことは絶対にしな
ない。自分たちの間違えた行動を
正しいと認識するのは良くない。

まわりの人に迷惑。認めて反省す
べき。残念だと思ふ。雰囲気を壊
している。反抗するのは
おかしい。

他人(友達)の考えを知る

<振り返り> 今後、ルールや決まりを守っていない友達がいたとき、あなたはどのように行動すると思えますか？ (青色：止める or 黄色：止めない)



決まりを守っていない人が増えると、周りの人に迷惑が
かかると。そうすると、いずれ自分にも迷惑がかかるかもしれ
ない。そう考えたとき、止めた方が良かったと思ったから。
でも、注意できない可能性もあるから。

よりよい生き方を考える

1 教材について、興味をもって読めたか？	A B C D
2 自分の考えを伝えることができたか？	A B C D
3 友達の考えを聞くことができたか？	A B C D
4 授業の内容について、深く考えることができたか？	A B C D

A：意欲的にできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった

先生から

自分だけでなく、みんながルールや決まりを守らなければいけないと教を深めていました。

ワークシートの工夫

本時の初めと終わりで考えの変容が分かる
ワークシートの例

① 多面的・多角的に考える

友達の考えを聞いた後の自分の考えの変容や、考えを深めることができたか、振り返りや教師の見取りに活用。(左欄：自分の考え、右欄：友達の考え)

② 授業前後の変容が分かる

初めと終わりの考えを比較できるようにすることで、自分の考えの変容が一目で分かる。また、友達の意見を聞いて、自分の考えが変化や深まりを知ることができる。

③ 中心発問は板書時に記入

中心発問等が最初に分かると生徒がそれに合わせた考えになってしまうため、発問内容が分からないようにすることで、よりそのときの自分の考えを書くことができる。

④ 毎時間の振り返り

授業の最後には、「興味をもったか」「自分の考えを伝えたか」「友達の考えを聞いたか」「深く考えることができたか」について振り返る。導入や展開の方法が適切だったかも見取ることができる。

「実態把握→計画→実践→評価→実態把握」のサイクル、通知表と要録の評価の例

実態把握

◎内容項目に対する生徒の実態

C(10)の内容項目で、「きまりや規則を守っているがその意義までは理解できていない」という傾向が見られた。

◎学校生活の実態

規則違反で指導を受けた。
※2つの点から中心にする生徒を決定。

計画

◎ねらいの設定

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

◎評価の視点の設定

作者の考えをもとに話し合い、決まりや規則について自分の行動を振り返り、多面的・多角的に考えている。

通知表の評価

◎変容が大きく見られた学習内容について記載

「許されない心」の学習では、遵法精神、公德心について友達と意見を交わす中で、みんなが決まりを守っていくことがよりよい社会につながると、様々な角度から考えていました。

評価

◎教師によるコメント

自分のことだけでなく、様々な角度から考えていたことを評価した。

◎学校生活での声かけ

ルールを意識して生活していることを認め、褒める。

実践

◎ワークシートや発言の記録

初めは「自分も守っていない点がある」から、半々の気持ちだったが、友達の意見で「まわりの人に迷惑がかかる」などの考えを聞き、振り返りの場面では「決まりを守っていない人がいると、周りの人にも迷惑がかかるし、自分にも返ってくるから、注意していきたい」と書いた。

要録の評価

◎大きくくりで記載

道徳的な価値について友達と議論する中で、人としてよりよく生きる方法や社会の在り方について、多角的に考えていた。

1年間の取り組みを振り返って

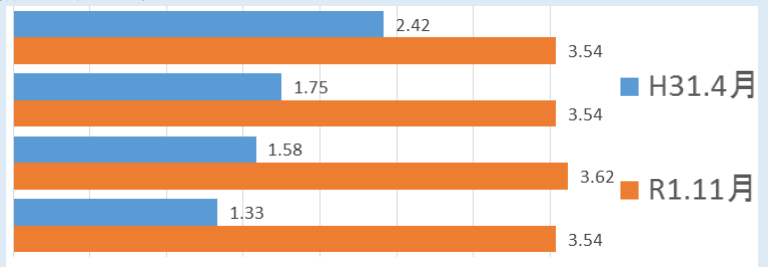
【仮説1（教師アンケートより）】 ※ 本校教師 13 名を対象に実施

一時間一時間の授業に対して十分に教材研究を行った上で実施できたか。

教材研究の時に、学習指導要領等で内容項目の概要や指導の要点を十分に確認した上で授業づくりを行ってきたか。

授業前に学年部等で協議を行うなど、道徳科の授業改善をチームとして行ってきたか。

授業後に学年部等で反省を行うなど、道徳科の授業改善をチームとして行ってきたか。



※ 4：とてもそう思う 3：そう思う 2：あまり思わない 1：まったく思わないで実施。グラフ中の数値は平均値。（以後のグラフも同様）

学年部による授業計画及び記録をシステム化したことで、授業者だけではなく学年部で「計画」→「実践」→「反省」→「改善」→「実践」のサイクルが実現できた。これにより、教材研究に取り組む教師の意識が高まったり、よりねらいに迫るための授業展開についてチームで考えたりすることができた。道徳科の授業の充実・改善につながった。

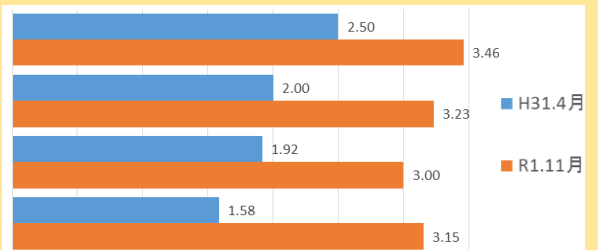
【仮説2（教師アンケートより）】 ※ 本校教師 13 名を対象に実施

導入において、生徒全員の顔が上がり、興味や関心が高まる導入の工夫を行ってきたか。

生徒が主体的に考え、他者と意見交換しなくなる中心発問の工夫を行ってきたか。

生徒が生き方を考える終末の工夫を行ってきたか。

主体的・対話的で深い学びのある道徳科の授業をつくることができたか。



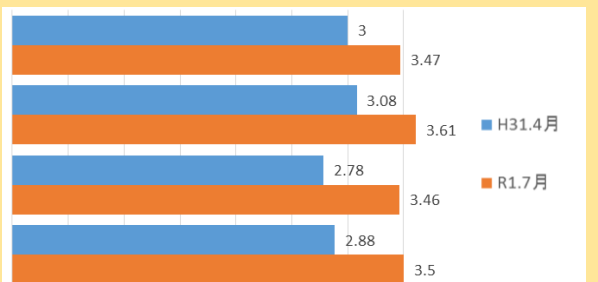
【仮説2（生徒アンケートより）】 ※ 生徒 38 名を対象に実施

教材について、興味をもって読めたか。

自分の考えをもち、友達に伝えることができたか。

友達の考えを、自分の考えに照らし合わせながら聞くことができたか。

授業の内容について、深く考えることができたか。



教師アンケートにおいては、導入・中心発問・終末の各場面において、「工夫を行ってきた」という意見が多かった。また、「主体的・対話的で深い学びのある道徳科の授業をつくることができたか。」の仮説に迫る質問には、ほとんどの教師が「できた」と答えており、取り組みを行ってきた教師自身の手応えを十分に感じる事ができた。生徒アンケートを見ると、生徒自身も主体的・対話的な学びができたと感じている様子が見える。一方で、これらの取り組みが生徒の道徳性の耕しに本当に効果があったのか、どのような効果があったのか、効果があったとすればなぜ効果的だったのか等、取り組みの検証方法を再考し、客観的事実に基づく検証を行っていくことが課題であり、今後必要な研究だと考える。

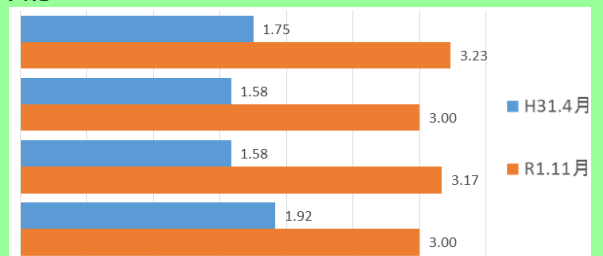
【仮説3（教師アンケートより）】 ※ 本校教師 13 名を対象に実施

授業前後の生徒の考えの変容が分かるような工夫を行ってきたか。

授業前後の生徒の変容を評価してきたか。

学習した内容項目について、定期的に振り返りの機会を作ってきたか。

生徒が自らの生き方について主体的に考えることができたか。



教師アンケートの数値は大きな伸びが見られるものの、「生徒が自らの生き方について主体的に考えることができたか」について具体的な見取りができていない現状である。ワークシートの工夫や心情円の活用等以外にも、生徒が記述した文章をどのように分析し、生徒が生き方を主体的に考えるように変容したか客観的に見取るための研究が必要であると考える。

今年度の研究は、道徳科の授業に焦点を当てて取り組んできた。今後は、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育について、道徳科の授業以外での取り組みについても研究を深めていきたい。